



高橋選手

文武両道の決意を笑顔で語る高橋選手

八学大で学び、見本に

高橋選手は昨年、栃木県の日光アイスバックスから移籍。日光在籍時、作新学院大学(宇都宮市)に社会人入学し、2年生までスポーツマネジメントを学んでいた。「現役を終えた後どう生きるかを考え、大学で学びたいと考えた」のが入学のきっかけと高橋選手。

チーム移籍後も勉学の意欲は衰えず、今年4月1日付で八学大に編入した。現在は人間健康学科の3年生として主に午後の授業をつづけ、午前中は9月1日のリーグ開幕に向け練習に余念がない毎日。宇都宮市の自宅に妻と3人の子どもを残し、八戸で「文武両道」

を実践する。今月上旬には大学関係者とともに小林眞市長を訪問。市長から「プロ選手のセカンドキャリア(現役引退後の生活)は重要な問題の一つ。頑張って勉強するとともに、アスリートとして大学にいい影響を与えてほしい」と激励を受けた。

「日本でセカンドキャリアが順調なアスリートは野球などのメジャースポーツだけなのが現状」と高橋選手。取材に「まず自身が大学で学んだ知識を卒業後の人生に生かしたい。将来は地域づくりに関わるとともに、チームの若い選手の見本になれば」と意気込みを語った。

ブレイズ・高橋さん

選手と学生文武両道

プロ引退後の生活研究

八戸

八戸市などが本拠地のアイスホッケーアジアリーグ東北フリーブレイズの現役DF高橋淳一選手(40)が、今春から八戸学院大学健康医療学部(現役引退後に過ごす人生について研究する)という、「スポーツに関連した地域づくりにも関わりたい」と意欲的だ。(若松清巳)